

## ■ 岩盤分類と掘削時間

軟岩Ⅰ・軟岩Ⅱ・中硬岩・硬岩Ⅰにおいては、積算と実績との間に大きな差は認められないため、掘削時間は積算どおり（大口径岩盤削孔工法の積算：平成12年度版）とし、硬岩Ⅱは杭径1000～1500mmの掘削時間を150分/m程度に設定する。さらに、機械における経済的な掘削が難しいと考えられる硬岩Ⅲを設定し、積算上は別途積算とする。これらをまとめて、新たな岩盤分類ごとの掘削時間（ケーシング回転掘削工法提案値）を下表に示す。

岩盤分類ごとの掘削時間（提案）

区分	掘削時間(積算 分/m)		
	杭径;1000～1500	杭径;1600～2000	杭径;2500～3000
軟岩Ⅰ	30.1	37.3	54.2
軟岩Ⅱ	44.4	55.1	79.9
中硬岩	60.0	74.4	108.0
硬岩Ⅰ	84.4	104.7	151.9
硬岩Ⅱ	150.0	186.0	(270.0)
硬岩Ⅲ	別途積算		

注1) 掘削時間(積算)は、杭径1000～1500mmの時間を基本とし、1600～2000mmは1.24倍、2500～3000mmは1.8倍したもの。

注2) 杭径2500～3000mmの硬岩Ⅱ(270.0)は、経済的な目安と見られる想定掘削速度0.3m/hに対し、0.22m/hと硬岩掘削の領域から外れると考えられるため、( )で表示した。